

今日のおおたか中 令和2年5月26日（火）

絵の具と絵画の歴史①「クロマニヨン人の絵の具と壁画」

美術の授業で使用している絵の具。何気なく使用していますが、みなさんは普段使っている道具について深く考えたことはありますか？「これは何からできているんだろう。」「歴史の中で、どんな変化を遂げてきたのだろう。」「ひとつのものに注目して考えてみる。それもまた美術の入り口です。

「今回は、絵の具ってどうしてできたのかな」「なんで昔の人は絵を描いたのかな。」
そのような疑問に答えるべく、**絵の具と絵画の歴史**について紹介をします。

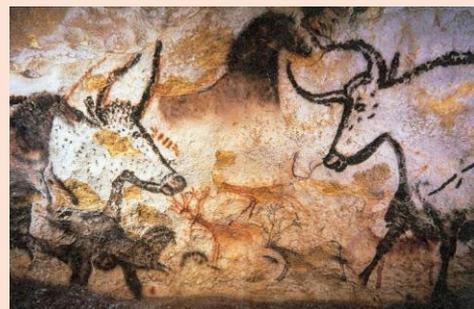


・後期旧石器時代の絵の具は、どのようなものだったのか

後期旧石器時代とは、今から約20,000年前のクロマニヨン人がいた時代のことです。絵画は昔から描かれていたんですね。中でも有名な作品はフランスの「ラスコー洞窟の壁画」です。

この頃の絵の具は、赤土・炭を樹液・動物の脂肪や血液と混ぜ合わせて作られていました。そして、その作った絵の具を筆の代わりに動物の毛や、木の枝の先端をほぐしたものの、指などを使い描かれました。

「絵の具」というものが無かった時代に、「この色のついた土と、ベタベタする樹液を混ぜたら壁に絵が描けるかもしれない。」と考え、試行錯誤して、絵を描こうとしたクロマニヨン人の絵画に対する熱意に、私は驚きを隠せませんね。私が旧石器時代に生まれていたら、枝や小石を拾って地面に絵を描いて終わっていたかもしれません。



ラスコー洞窟の壁画

・後期旧石器時代の人なぜ絵画を描いたのか

なぜ描いたのだと思いますか？ただ絵が好きだったからでしょうか、ただ描いてみたいからでしょうか。みなさんは、どう思いますか？この描かれた意図についてはいろいろな説があります。「明日も狩りが成功しますように」という祈りや、「狩りで命を頂くため、動物の魂を鎮魂した」などの呪術的側面があるのではないかという説。または集落の記録、絵日記ではないかという説。正解は20,000年前のクロマニヨン人に聞いてみないとわかりませんね。研究者が一生懸命調べていますが、もしかすると本当にただの落書きかもしれません。絵画は作者の手を離れた瞬間から、作者の意図とは違った意味を持つときがあります。昔の作品は特にそうですね、私は美術のそういうところが好きですね。みんなの授業で作った作品も20,000年後に発見されたら、どのような意味を持つのでしょうか。将来が楽しみですね。

今回はクロマニヨン人の絵の具と壁画を紹介しました。次回は生卵を使った絵の具について紹介します。

おおたかの森中・美術科